

**PORTABLE CASE**

Patent Number: JP11290114  
Publication date: 1999-10-26  
Inventor(s): TERA I TAKAHIRO  
Applicant(s): NEC SAITAMA LTD  
Requested Patent: ☐ JP11290114  
Application Number: JP19980097990 19980409  
Priority Number(s):  
IPC Classification: A45C13/00; A45C11/00  
EC Classification:  
Equivalents: JP2933600B2

---

**Abstract**

---

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a case having a belt attachment means through which a belt can be passed in two of almost mutually perpendicular longitudinal and transverse directions so that the wearing position of the case can be freely selected to suit the physique of a user and its wearing position and so that pressure to the abdomen and waist, etc., of the user is reduced while the application of load to stored objects is also prevented.

**SOLUTION:** A portable case has a base main body 10 which can store the subject of storage and a belt attachment means 20 for attaching the case main body 10 to a belt 1, the belt attachment means 20 taking a tubular shape which enables the belt 1 to pass through its center, and having a pair of fixed parts 21a and 21b at both ends of a tube opening which are fixed to the case main body 10. First and second passing parts 22 and 23 through which the belt 1 can pass in two almost mutually perpendicular directions are formed by the center portion of the tube and the space between the part of fixed parts 21a and 21b. Further, a plurality of slits 24 through which the belt 1 can be passed are cut in the surface of the tubular member of the belt attachment means 20.

---

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-290114

(43) 公開日 平成11年(1999)10月26日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>A 4 5 C 13/00  
11/00

識別記号

F I

A 4 5 C 13/00  
11/00M  
E

審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 17 頁)

(21) 出願番号 特願平10-97990

(22) 出願日 平成10年(1998)4月9日

(71) 出願人 390010179

埼玉日本電気株式会社

埼玉県児玉郡神川町大字元原字豊原300番  
18

(72) 発明者 寺井 隆博

埼玉県児玉郡神川町大字元原字豊原300番  
18 埼玉日本電気株式会社内

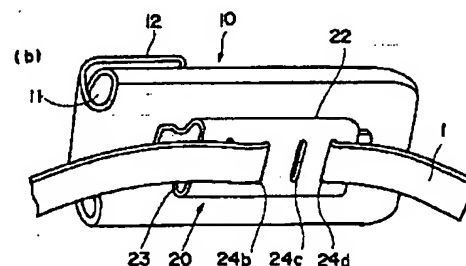
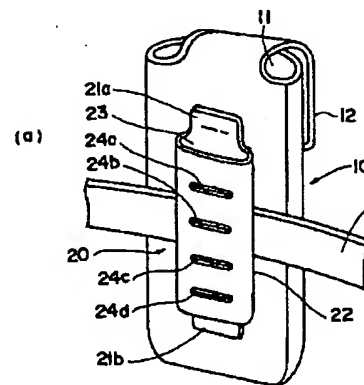
(74) 代理人 弁理士 渡辺 喜平

(54) 【発明の名称】 携帯用ケース

(57) 【要約】

【課題】 ベルトをほぼ直交する縦横二方向に挿通可能なベルト取付手段を備え、使用者の体型、取付箇所等に応じ、ケースの取付態様を任意に選択可能とし、使用者の腹部や腰部等への圧迫を軽減し、収納物への負荷等も防止する。

【解決手段】 対象物を収納可能なケース本体10と、ケース本体10をベルト1に取り付けるベルト取付手段20を備え、ベルト取付手段20が、中心にベルト1を挿通可能な筒状で、かつ、筒開口側の両端に、それぞれケース本体10に固定される一対の固定部21a、21bを備え、筒の中心部及び一対の固定部21a、21b間によって、ベルト1がほぼ直交する二方向に挿通可能な第一挿通部22と第二挿通部23を構成し、さらに、ベルト取付手段20の筒状部材表面に、ベルト1を挿通可能な複数のスリット孔24を穿設した構成としてある。



**【特許請求の範囲】**

【請求項1】 内部に携帯対象物を収納可能なケース本体と、このケース本体をベルトに取り付けるベルト取付手段とを備え、

前記ベルト取付手段が、前記ベルトをほぼ直交する二方向にそれぞれ挿通可能な複数の挿通部を備えたことを特徴とする携帯用ケース。

【請求項2】 前記ベルト取付手段が、中心に前記ベルトを挿通可能な筒状部材からなるとともに、この筒状部材の開口側の両端に、それぞれ前記ケース本体に固定される一対の固定部を備え、

この筒状部材の中心部及び前記一対の固定部間により、前記ベルトがほぼ直交する二方向に挿通可能な挿通部を構成した請求項1記載の携帯用ケース。

【請求項3】 前記ベルト取付手段が、両端に、それぞれ前記ケース本体に固定される一対の固定部を備えた帯状部材からなるとともに、この帯状部材に、前記ベルトが挿通可能な二以上のスリット孔を備え、

この帯状部材のスリット孔及び前記一対の固定部間により、前記ベルトがほぼ直交する二方向に挿通可能な挿通部を構成した請求項1記載の携帯用ケース。

【請求項4】 前記ベルト取付手段の筒状部材表面に、前記ベルトを挿通可能な一又は二以上のスリット孔を穿設した請求項2記載の携帯用ケース。

【請求項5】 前記スリット孔が二以上ある場合に、当該二以上のスリット孔が異なる大きさに形成された請求項3又は4記載の携帯用ケース。

【請求項6】 前記ベルト取付手段の両端固定部の少なくとも一方を、前記ケース本体に着脱自在に固定した請求項1から5のいずれか一項記載の携帯用ケース。

【請求項7】 前記ベルト取付手段の両端固定部間の少なくとも一箇所に、当該ベルト取付手段と前記ケース本体とを連結し、当該固定部間により構成された前記挿通部を仕切る仕切部を備えた請求項1から6のいずれか一項記載の携帯用ケース。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、携帯電話機に代表される小型の携帯型無線装置等を収納し、使用者のベルト等を挿通して携帯する携帯用ケースに関し、特に、使用者のベルトをほぼ直交する縦横二方向に挿通可能なベルト取付手段を備えることにより、使用者の好みや体型、取付箇所等に応じて、ケースのベルトへの取付態様を任意に選択することができ、ケースを安定的に保持しつつ、使用者の腹部や腰部等への圧迫を軽減するとともに、収納物への負荷等も防止することができる携帯用ケースに関する。

**【0002】**

【従来の技術】一般に、携帯電話機に代表される小型の携帯型無線装置やその他各種の携帯用機器類等は、使用

者が自由に携帯、移動して使用するものであり、通常は、携帯用ケースに収納された状態で携帯される。このような携帯用ケースは、携帯電話機等の収納対象物を収納したケース本体に、使用者のベルト等を挿通して携帯できるようになっている。

【0003】ここで、このような従来の一般的な携帯用ケースについて、図15を参照して説明する。図15は、従来の一般的な携帯用ケースを背面側から見た全体斜視図を示している。同図に示すように、従来の携帯用ケースは、内部に携帯電話機等の携帯対象物を収納可能な収納部111を有するケース本体110と、このケース本体110を使用者のベルトに取り付けるためのベルト取付手段120とを備えた構成となっている。

【0004】ケース本体110は、内部に対象物を収納できるケース上部に開口した収納部111と、この収納部111の開口を開閉自在に覆う蓋部112を備えており、図15では、携帯電話機用のケースを示しており、ケース全体が携帯電話機の形状に対応した縦長形状となっている。

【0005】そして、このケース本体110の背面部に使用者のベルトを挿通可能なベルト取付手段120が備えられている。図15に示すように、ベルト取付手段120は、両端がそれぞれケース本体110の背面に固定される固定部121a、121bを備えた帯状部材からなり、この帯状体の両端固定部121a、121bの間に使用者のベルトが挿通可能な空間（挿通部122）が形成されるようになっている。

【0006】このような構成からなる従来の携帯用ケースは、ケース本体110の収納部111に対象物となる携帯電話機（図示せず）を収納するとともに、ベルト取付手段120の挿通部122に、ズボンのベルト等を挿通することによって、使用者の腰や腹部に取り付けられた状態で携帯できるようになっている。

【0007】この種のベルト取付手段を備えた従来の携帯用ケースに関するものとしては、例えば、実用新案登録第3027502号の「携帯ソフトケース」や、同じく実用新案登録第3027921号の「携帯ソフトケース」等が知られている。

**【0008】**

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このような従来の携帯用ケースは、使用者のベルト等を挿通するベルト取付手段が、ケースの長手方向に沿って配設され、使用者のベルト等は常にケースの短手方向の一方向にしか挿通できないようになっていた。このため、従来の携帯用ケースでは、使用者の体型、取付箇所等に拘わらず、ケースのベルトへの取付態様を選択することができなかった。

【0009】このため、使用者によっては、ケースの存在が圧迫感や異物感の原因となったり、ケース側へ無用な負荷がかかるおそれがあり、使用者にとっては携帯時

の不快感や不安感を与えるという問題が発生した。

【0010】特に、図15に示したように、収納物が携帯電話機などの場合、ケース本体の全体が縦長となり、収納する対象物も硬い通信装置であるので、腰の折曲げ等の動作によって、ケースの存在が使用者の腹部や腰部への圧迫となって、動作の邪魔や身体への異物感、痛み等の原因となったり、逆に急な腰の動作等によって、ケース内の電話機等に負荷がかかり、装置の破損等につながるおそれが大きかった。

【0011】なお、このようなケースの使用者へ圧迫感やケース収納物の保護の観点から、特開平9-140431号や実用新案登録第3021602号には、ベルト取付手段をケース本体の上方に延びる吊紐状に構成し、ケース本体を使用者のベルトに吊下げ状態で取り付けるようにした「携帯ソフトケース」が提案されている。このような携帯ケースによれば、ケース本体が使用者の腰から吊下げられた状態となるので、使用者側にはケースの存在による腹部等への圧迫感がなくなり、ケース側にも腹部や腰部によって負荷がかからなくなるという効果があった。

【0012】しかし、このような吊下げ状のケースでは、ケース本体が使用者のベルトからぶら下がって不安定な状態となってしまう、特に、使用者が移動する際に、ぶら下がったケース本体がベルトを中心に前後、上下に動いてしまうという新たな問題が生じた。すなわち、使用者にとっては、腰部等で激しく動くケースによって、却って異物感や不安感が増大し、ケースに収納された携帯電話機等の収納物にとっても、前後上下方向へ激しく動くぶら付き運動が、装置の誤作動や故障の原因となるおそれがあった。

【0013】本発明は、このような従来の技術が有する問題を解決するために提案されたものであり、使用者のベルトをほぼ直交する縦横二方向に挿通可能なベルト取付手段を備えることにより、収納物の形状や大きさ、使用者の好みや体型、取付箇所等に応じて、ケースのベルトへの取付態様を任意に選択することができ、ケースを安定的に保持しつつ、使用者の腹部や腰部等への圧迫を軽減するとともに、収納物への負荷等も防止することができる携帯用ケースの提供を目的とする。

【0014】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本発明の請求項1記載の携帯用ケースは、内部に携帯対象物を収納可能なケース本体と、このケース本体をベルトに取り付けるベルト取付手段とを備え、前記ベルト取付手段が、前記ベルトをほぼ直交する二方向にそれぞれ挿通可能な複数の挿通部を備えた構成としてある。

【0015】特に、請求項2では、前記ベルト取付手段が、中心に前記ベルトを挿通可能な筒状部材からなるとともに、この筒状部材の開口側の両端に、それぞれ前記ケース本体に固定される一対の固定部を備え、この筒状

部材の中心部及び前記一対の固定部間により、前記ベルトがほぼ直交する二方向に挿通可能な挿通部を構成してある。

【0016】一方、請求項3では、前記ベルト取付手段が、両端に、それぞれ前記ケース本体に固定される一対の固定部を備えた帯状部材からなるとともに、この帯状部材に、前記ベルトが挿通可能な二以上のスリット孔を備え、この帯状部材のスリット孔及び前記一対の固定部間により、前記ベルトがほぼ直交する二方向に挿通可能な挿通部を構成するようにしてある。

【0017】このような構成からなる本発明の携帯用ケースによれば、ケース本体に備えられた筒状又は帯状部材からなるベルト取付手段によって、使用者のベルトを、ほぼ直交する縦横二方向に挿通することができるので、収納物の形状や大きさ、使用者の好み、体型、取付箇所等に応じて、ケース本体のベルトへの取付態様を任意に選択することが可能となる。これにより、ケース本体を安定的に保持しつつ、使用者の腹部や腰部等への圧迫を軽減し、かつ、収納物への負荷等も防止することができる。

【0018】また、請求項4記載の携帯用ケースは、前記ベルト取付手段の筒状部材表面に、前記ベルトが挿通可能な又は二以上のスリット孔を穿設した構成としてある。

【0019】このような構成からなる本発明の携帯用ケースによれば、ベルト取付手段へスリット孔を形成し、このスリット孔を利用することによって、ベルトの挿通位置を適宜調節してケースを取り付けることができ、収納物の形状、大きさや使用者の体型、取付箇所等に応じて、さらにケース本体のベルトへの取付態様を任意に調節可能となり、より汎用性の高い携帯用ケースを提供することが可能となる。

【0020】また、請求項5記載の携帯用ケースは、前記スリット孔が二以上ある場合に、当該二以上のスリット孔が異なる大きさに形成された構成としてある。

【0021】このような構成からなる本発明の携帯用ケースによれば、スリット孔の大きさを異ならせることによって、このスリット孔に挿通するベルトの大きさも異ならせることができ、一のベルト取付手段によって二以上の大きさのベルトを挿通させることが可能となり、種々のベルトに対応可能として本ケースの汎用性をさらに高めることが可能となる。

【0022】また、請求項6記載の携帯用ケースは、前記ベルト取付手段の両端固定部の少なくとも一方を、前記ケース本体に着脱自在に固定した構成としてある。

【0023】このような構成からなる本発明の携帯用ケースによれば、ベルト取付手段の固定部を着脱自在に構成することにより、使用者のベルト等へのケース本体への取付け、取外しを容易に行うことができるとともに、ベルトに限らず、あらゆる箇所へのケースの取付けも可

能となる。

【0024】さらに、請求項7記載の携帯用ケースは、前記ベルト取付手段の両端固定部分の少なくとも一箇所に、当該ベルト取付手段と前記ケース本体とを連結し、当該固定部分により構成された前記挿通部を仕切る仕切部を備えた構成としてある。

【0025】このような構成からなる本発明の携帯用ケースによれば、ベルト取付手段に仕切部を設けることで、ベルト取付手段の両端固定部分により形成されるベルトの挿通部を複数に仕切ることができ、ベルトの挿通位置をさらに多段階に調節可能とし、より汎用性の高いケースを実現することができる。

【0026】

【発明の実施の形態】以下、本発明の携帯用ケースの実施形態について、図面を参照して説明する。

【第一実施形態】まず、本発明の携帯用ケース第一の実施形態について図1～図3を参照して説明する。図1は、本発明の第一実施形態に係る携帯用ケースを示す背面側から見た全体斜視図である。図2は、本実施形態に係る携帯用ケースを示す左側面図である。また、図3は、本実施形態に係る携帯用ケースを使用者側のベルトに取り付けた状態を示す背面側から見た斜視図であり、(a)はケース本体を縦に取り付けた状態を、(b)はケース本体を横に取り付けた状態を示している。

【0027】これらの図に示すように、本発明の第一実施形態に係る携帯用ケースは、内部に携帯電話機等の携帯対象物を収納可能なケース本体10と、このケース本体10を使用者のベルト1に取り付けるためのベルト取付手段20とを備えた構成となっている。

【0028】ケース本体10は、内部に対象物を収納できるケース上部に開口した収納部11と、この収納部11の開口を開閉自在に覆う蓋部12を備えており、本実施形態では、携帯電話機を収納、携帯するケースの場合を示しており、ケース全体が携帯電話機の形状に対応した縦長形状となっている。

【0029】ただし、ケース本体10への収納物は、本実施形態の場合のように携帯電話機に限定されるものではなく、PHD、電子手帳等の小型の携帯型電子装置やトランシーバ、あるいはカメラ等、ケースに収納して携帯する必要がある携帯型の物品に適用できるものである。すなわち、ケース本体10の形状、大きさを収納する対象物に対応した形状とすることにより、本実施形態に係る携帯用ケースは、携帯の必要があるあらゆる物品に適用することが可能となる。

【0030】なお、ケース本体10の上方開口を覆う蓋部12とケース本体10の正面側には、互いに着脱自在に構成されたロック部13(13a, 13b)が備えられ、蓋部12が不用意に開いて収納物が露出、脱落等することを防止するとともに、必要な場合には直ちに蓋部12を開くことができるようになっている。このロック

部13の構成としては、互いに着脱自在となるものであれば、どのような手段であっても特に限定はなく、通常は、面ファスナやホック等により構成されることが一般的である。

【0031】そして、このケース本体10の背面側に使用者のベルトを挿通可能なベルト取付手段20が備えられている。ベルト取付手段20は、図1～図3に示すように、中心にベルト1が挿通可能な空間(第二挿通部23)を有する筒状部材によって構成してある。本実施形態では、この筒状のベルト取付手段20の両端開口が、ケース本体10の長手方向(図1における図面上下方向)に向かって開口するように配設してある。

【0032】ここで、このベルト取付手段20の中心の第二挿通部23は、ベルト1が挿通可能であれば筒体の形状、長さは特に限定されないが、通常は、挿通するベルト1の形状に対応して、筒体の形状も断面長楕円形状とすることが好ましい。また、筒体の長さも、ケース本体10を使用者のベルト1に対して圧迫感なく、かつ、安定的に取り付けるように、ケース本体10のほぼ1/2程度の長さとするのが好ましい。

【0033】そして、このベルト取付手段20は、筒状体の両端開口側に、それぞれケース本体10に固定される固定部21(21a, 21b)が備えてある。すなわち、ベルト取付手段20には、両端開口からそれぞれ舌片状の固定部21a, 21bが延設しており、この固定部21a, 21bがそれぞれケース本体10の背面に、縫合、接着等の手段により固着してある。これによって、図2に示すように、二つの固定部21a, 21bの間にベルトが挿通可能な空間(第一挿通部22)が形成され、上述した筒部の第二挿通部23とともに、ほぼ直交する二つの挿通部22, 23が形成されることになる。

【0034】ここで、このベルト取付手段20の両端固定部21a, 21bの間に形成される第一挿通部22も、ベルト1が挿通可能であれば、その幅や高さは特に限定されないが、通常は、挿通するベルト1に対応して、第一挿通部22の形状もベルト1の断面形状と同様となるようにし、その幅も、ケース本体10をベルト1に安定的に取り付けられるように、ベルト1の幅より一回り程度大きい幅となるように設定することが好ましい。

【0035】なお、以上のような構成からなる本実施形態の携帯用ケースの材質としては、ケース本体10及びベルト取付手段20とも、特に限定はなく、携帯電話機等の携帯対象物を収納、携帯できるものであればよいが、一般的には、携帯に使用されるケースとして、軽量かつ耐久性に富む材質のものが好ましく、通常は、例えば、皮革、合成繊維等により形成されるようになっている。図1～図3に示すケースは、合成繊維により形成したものを示している。

【0036】次に、このような構成からなる本実施形態の携帯用ケースの使用態様について図3を参照して説明する。まず、図3(a)に示すように、ベルト1を第一挿通部22に挿通して取り付けることができる。

【0037】この場合には、ケース本体10がベルト1に対して縦長にほぼ直交した状態で取り付けられことになり、ケース開口が使用者に対して上方に位置するので、携帯電話機等の収納対象物の出し入れが容易となる。従って、このように第一挿通部22へベルト1を挿通する態様は、特に収納物及びケース本体10の縦寸法が小さい場合や、収納物の出し入れが頻繁に行われるような場合に好適となる。

【0038】一方、図3(b)に示すように、ベルト1を第二挿通部23に挿通して取り付けることもできる。この場合には、ケース本体10はベルト1と並行に横長に配設された状態で取り付けられることになり、図3(a)に示した縦長の状態と比較して、ケース本体10が上下方向に突出することがなくなる。

【0039】これにより、ケース本体10は、使用者に密着した状態で取り付けられるが、腰や腹部への圧迫や異物感はなく、しかも、腰の折り曲げ等の動作によっても、ケース本体10が腹部等に当たったり、ケース本体10に無用な負荷がかかったりすることが少なくなる。従って、このように第二挿通部23へベルト1を挿通する態様は、特に収納物及びケース本体10の縦寸法が大きい場合で、使用者の折曲げ動作や湾曲の少ない部分、例えば腹部等への取付けの場合に好適となる。

【0040】このように本実施形態の携帯用ケースによれば、ケース本体10に備えられた筒状のベルト取付手段20によって、使用者のベルト1を、ほぼ直交する縦横二方向に挿通することができるので、収納物の形状や大きさ、使用者の好み、体型、取付箇所等に応じて、ケース本体10のベルト1への取付態様を任意に選択することが可能となる。これにより、ケース本体10が安定的に保持されつつ、使用者の腹部や腰部等への圧迫が軽減され、しかも、収納物への負荷等もかからない。

【0041】なお、本発明の携帯用ケースは、上記の実施形態に限定されるものではなく、後述する第二～第五実施形態も含めて、本発明の要旨の範囲内で種々の変形実施が可能である。例えば、上述した図1～図3の実施形態では、合成繊維製品からなるケース本体10の背面側にベルト取付手段20を備えるようにしてあるが、これを、図4及び図5に示すように、皮革製品からなるケース本体10とすることもでき、また、ベルト取付手段20をケース本体10の正面側に配設するようにしてもよい。このように構成しても、上述した図1～図3の実施形態の場合と同様の効果を奏することができる。

【0042】また、図1～図3では、ベルト取付手段20を、筒部の両端開口が、ケース本体10の長手方向に向かって配設されるようにしてあるが、これを、図6に

示すように、ベルト取付手段20の両端開口が、ケース本体10の短手方向(図6における図面左右方向)に向かって開口するように配設することもできる。

【0043】このようにしても、図6に示すように、ベルト取付手段20の筒部中心によって第一挿通部22が形成されるとともに、二つの固定部21a、21bの間にベルトが挿通可能な第二挿通部23が形成され、ほぼ直交する二つの挿通部22、23が形成されることになり、上述した図1～図3の場合と同様の効果を奏することができる。

【0044】[第二実施形態]次に、本発明の携帯用ケースの第二の実施形態について図7～図9を参照して説明する。図7は、本発明の第二実施形態に係る携帯用ケースを示す背面側から見た全体斜視図である。図8は、本実施形態に係る携帯用ケースを示す左側面図である。また、図9は、本実施形態に係る携帯用ケースを使用者側のベルトに取り付けた状態を示す背面側から見た斜視図であり、(a)はケース本体を縦に取り付けた状態を、(b)はケース本体を横に取り付けた状態を示している。

【0045】ここで、本実施形態に係る携帯用ケースは、上述した第一実施形態の変更実施形態であり、ベルト取付手段20に、ベルト1を挿通可能なスリット孔を複数設けたものであり、他の構成部分については、第一実施形態の場合と同様の構成としてある。従って、第一実施形態と同様の構成部分については、同一符号を付し、詳細な説明は省略する。

【0046】すなわち、本実施形態では、ベルト取付手段20の筒状体表面に、ベルト1が挿通可能な複数のスリット孔24(24a、24b、24c、24d)を穿設してある。この複数のスリット24は、図7に示すように、ベルト取付手段20の第二挿通部23に挿通されるベルト1が挿通できるように、ベルト取付手段20の筒開口方向に沿って複数列設してあり、本実施形態では四つのスリット孔24a、24b、24c、24dが形成してある。

【0047】このように、ベルト取付手段20に複数のスリット孔24を形成することによって、第二挿通部23へのベルト1の挿通態様を任意に変更することができる。すなわち、図9(b)に示すように、ベルト1をスリット孔24(図9(b)ではスリット孔24b、24d)を介して第二挿通部23に挿通することによって、ベルト1を第二挿通部23の全長より短い部分に挿通させることができる。しかも、これを複数のスリット孔24を任意に選択、変更することによって、多段階に調節することが可能となる。

【0048】これによって、ケース本体10の使用側への密着状態を任意に変更、調節することが可能となり、特に、収納物が使用者の腰回りの湾曲線よりも長大な場合には、このスリット孔24による調節によって、

腰や腹部への圧迫や異物感がより少ない取付態様を選択することができ、腰の折り曲げ等の動作によってケース本体10に負荷がかかることを防止できる。従って、本実施形態では、特に上述した第一実施形態の場合より、さらに収納物及びケース本体10の縦寸法が大きい場合や、湾曲の大きい箇所への取付けの場合に好適となる。

【0049】なお、この複数のスリット孔24の数としては、少なくとも一つが形成されればベルト1の挿通態様を二段階に調節できるが、より多段階の調節を可能とできる観点から、二以上の複数のスリット孔24を形成することが好ましい。

【0050】また、複数のスリット孔24は、本実施形態ではすべて同形、同大の孔として形成してあるが、後述する第三実施形態の場合のように、複数のスリット孔ごとに大きさや形状を異ならせることも可能である。その場合には、スリット孔の複数の大きさ、形状に対応した複数のベルトを挿通可能とすることができるといふ効果がある。

【0051】このように本実施形態の携帯用ケースによれば、複数のスリット孔24を利用することにより、ベルト1の挿通位置を適宜調節してケースを取り付けることができるので、収納物の形状、大きさや使用者の体型、取付箇所等に応じて、さらにケース本体10のベルト1への取付態様を任意に選択して調節することができ、より汎用性の高い携帯用ケースを提供することが可能となる。

【0052】〔第三実施形態〕次に、本発明の携帯用ケースの第三の実施形態について図10を参照して説明する。図10は、本発明の第三実施形態に係る携帯用ケースを使用者側のベルトに取り付けた状態を示す背面側から見た斜視図であり、(a)はケース本体を縦に取り付けた状態を、(b)はケース本体を横に取り付けた状態を示している。

【0053】ここで、本実施形態に係る携帯用ケースは、上述した第二実施形態の変更実施形態であり、スリット孔24を備えたベルト取付手段20として、第二実施形態における筒状のベルト取付手段に代えて帯状部材からなるベルト取付手段を採用している。その他の構成部分については、第一及び第二実施形態の場合とほぼ同様の構成としてあり、同様の構成部分については、同一符号を付し、詳細な説明は省略する。

【0054】すなわち、本実施形態では、図10に示すように、ケース本体10の背面部に使用者のベルトを挿通可能に取り付けられるベルト取付手段20を帯状部材により形成してある。図12に示すように、ベルト取付手段20は、両端がそれぞれケース本体10の背面に固定された帯状体からなり、この帯状体の両端は、それぞれ固定部21a及び21bとなっている。この両固定部21a、21bの間によって、使用者のベルトが挿通可能な第一挿通部22が形成されるようになっている。

【0055】一方、この帯状部材からなるベルト取付部20の表面には複数のスリット孔24(24a、24b、24c、24d)が形成してある。この複数のスリット孔24は、図10(b)に示すように、ベルト1をベルト取付手段20に対して、第一挿通部22とほぼ直交する方向に挿通できるように、ベルト取付手段20の帯長手方向とほぼ直交する方向に伸びるスリット孔となっており、当該帯長手方向に沿って複数列設してある。本実施形態では、図10(a)に示すように、四つのスリット孔24a、24b、24c、24dが形成してある。

【0056】このように、ベルト取付手段20に複数のスリット孔24を形成することによって、上述した第二実施形態における筒状の第二挿通部23を設けなくても、ベルト1を第一挿通部22とほぼ直交する方向に挿通でき、かつ、その挿通態様を任意に変更することができる。

【0057】すなわち、図10(b)に示すように、ベルト1を複数のスリット孔24(図10(b)ではスリット孔24b、24d)に挿通することによって、ベルト1を第一挿通部22とほぼ直交する方向に挿通でき、しかも、これを複数のスリット孔24を任意に選択、変更することによって、ベルト1の挿通位置及び長さを多段階に調節することが可能となる。

【0058】これによって、本実施形態の携帯用ケースでは、ベルト取付手段20を筒状に形成して第二挿通部23を設けなくても、第二実施形態と同様の効果を得ることができ、特に、ベルト取付手段20を形成する材料を、筒状に形成する場合に比べて節約できる効果がある。

【0059】さらに、本実施形態では、図10に示すように、複数のスリット孔24を異なる大きさに形成してある。このように、スリット孔24の大きさを異ならせることによって、このスリット孔24に挿通するベルト1の大きさも異ならせることができ、一のベルト取付手段20によって二以上の大きさのベルト1を挿通させることが可能となる。

【0060】ただし、このスリット孔24の大きさを一定以上の大きさに形成することで、複数の大きさのベルトを挿通可能とすることも可能であり、その場合には、スリット孔24の大きさを異ならせる必要はない。

【0061】なお、複数のスリット孔24の数としては、少なくとも二つが形成されればベルト1の挿通が可能となるが、ベルト1の挿通態様を二段階以上に調節可能とする観点からは、スリット孔24を三つ以上形成することが好ましい。

【0062】また、スリット孔24の大きさを、上述したように異ならせる場合には、スリット孔24を二以上形成した場合において、少なくとも二つのスリット孔24を異なる大きさに形成すればよい。ただし、本実施形



態では、第二実施形態の場合と異なり、スリット孔24のみをベルト1の挿通部として機能させているので、二種以上のベルト1を挿通させるには、スリット孔24を少なくとも四つ形成し、それぞれ二組のスリット孔24の大きさが異なるように形成する。

【0063】従って、上述した第二実施形態におけるように、スリット孔24と筒状の第二挿通部23とを併用する場合には、スリット孔24を二以上設ける場合であって、当該二以上のスリット孔24のうち、少なくとも二つのスリット孔24を異なる大きさに形成すれば足りる。

【0064】〔第四実施形態〕次に、本発明の携帯用ケースの第四の実施形態について図11及び図12を参照して説明する。図11は、本発明の第四実施形態に係る携帯用ケースを示す背面側から見た全体斜視図である。図12は、本実施形態に係る携帯用ケースを示す左側面図である。

【0065】ここで、本実施形態に係る携帯用ケースは、上述した第一実施形態の変更実施形態であり、ベルト取付手段20の固定部の一方を、ケース本体10に対して着脱可能に固定するようにしたものであり、他の構成部分については、第一実施形態の場合と同様の構成としてある。従って、第一実施形態と同様の構成部分については、同一符号を付し、詳細な説明は省略する。

【0066】すなわち、本実施形態では、図12に示すように、ベルト取付手段20の両端固定部21a、21bのうち、下側の固定部21bを、ケース本体10に着脱自在に固定してある。これによって、この固定部21bをケース本体10側から取り外すことにより、ベルト1への取付けが容易に行えるようになる。

【0067】すなわち、使用者のズボンなどに装着されたベルト1をベルト取付手段20の第一挿通部22に挿通させる場合、上述した第一及び第二実施形態の場合では、ベルト1をズボン等から抜き取らなければならない。これに対して、本実施形態のベルト取付手段20によれば、固定部21bをケース本体10側から取り外した状態（図12の二点鎖線で示す状態）とすることにより、ベルト1を第一挿通部22に挿通させることができる。

【0068】これによって、ケース本体10のベルト1への取り付けをより容易かつ迅速に行うことができるとともに、ベルト1以外にも、靴のストラップや把手等、あらゆる箇所への取り付けも可能となる。

【0069】ここで、この下側の固定部21bの着脱自在な構成として、本実施形態では、固定部21b側とケース本体20側にそれぞれ設けた一对のホック25a、25bにより構成してある。ただし、固定部21bとケース本体1が互いに着脱自在となるものであればどのような手段であってもよく、ホック以外にも、面ファスナやその他のロック機構等を用いることもできる。

【0070】なお、本実施形態では、ベルト取付手段20の両端固定部のうち、下方の固定部21bのみをケース本体10に対して着脱可能に構成してあるが、これを上方の固定部21aについても着脱可能としてもよい。従って、ベルト取付手段20の両端固定部の少なくとも一方を、ケース本体10に着脱自在に構成すれば、上述した本実施形態の効果を得ることができる。

【0071】このように本実施形態の携帯用ケースによれば、ベルト取付手段20の両端固定部21を着脱自在に構成することにより、使用者のベルト等へのケース本体への取付け、取外しを容易に行えるようにするとともに、ベルトに限らず、あらゆる箇所への本ケースの取付けを可能とすることができる。

【0072】なお、本実施形態の着脱可能なベルト取付手段を、上述した第二実施形態のスリット孔を形成した筒状のベルト取付手段や、第三実施形態の帯状部材からなるベルト取付手段にも適用できることは勿論である。

【0073】〔第五実施形態〕次に、本発明の携帯用ケースの第五の実施形態について図13及び図14を参照して説明する。図13は、本発明の第五実施形態に係る携帯用ケースを示す左側面図である。また、図14は、本実施形態に係る携帯用ケースを使用者側のベルトに縦に取り付けた状態を示す背面側から見た斜視図であり、(a)はベルトをベルト取付手段の上方の挿通部に挿通した状態を、(b)は同じく下方の挿通部に挿通した状態を示している。

【0074】ここで、本実施形態に係る携帯用ケースは、上述した第一実施形態の変更実施形態であり、ベルト取付手段20を、両端固定部分の他に、さらに当該固定部分の中間においてケース本体10側に固定するようにしたものであり、他の構成部分については、第一実施形態の場合と同様の構成としてある。従って、第一実施形態と同様の構成部分については、同一符号を付し、詳細な説明は省略する。

【0075】すなわち、本実施形態では、ベルト取付手段20の両端固定部21a、21bのほぼ中心に、ケース本体10に固定される仕切部26を備えた構成としてある。この仕切部26は、図14の鎖線で示すように、ベルト取付手段20の筒開口方向のほぼ中心に、この筒開口方向とほぼ直交する方向に配設された突条部材であり、図13に示すように、ベルト取付手段20とケース本体10とを連結して、ケース本体10の背面とベルト取付手段20の底面との間に形成されている第一挿通部22を、二つの挿通部22a、22bに仕切っている。

【0076】このように、仕切部26を設けて第一挿通部22を二つに仕切ることによって、上述した第一〜第四実施形態の場合と比較して、第一挿通部22についても、ベルト1の挿通位置を上下二段に調節することができ（図14(a)及び(b)参照）、より多段階の調節が可能となる。これによって、さらに種々の取付態様を



選択することができ、汎用性の高いケースを実現することができる。

【0077】なお、このように第一挿通部22を二つに仕切ることから、本実施形態の適用にあたっては、二つに仕切られた挿通部22a、22bへ挿通可能な幅のベルト1を使用することが必要となる。このため、本実施形態では、上述した第一〜第四実施形態より幅の小さいベルト1を使用するか、あるいは、ベルト取付手段20の長手方向の寸法を大きくする必要がある。

【0078】従って、本実施形態のケースは、細幅のベルト1に取り付ける場合や、ケース本体10自体が大きく、ベルト取付手段20の寸法を大きく確保できる場合に特に好適である。

【0079】なお、本実施形態では、ベルト取付手段20の両端固定部21a、21bの間のほぼ中心の一箇所に仕切部26を備えてあるが、上述したように、ベルト1が細幅の場合やベルト取付手段20を比較的大きく形成できる場合には、仕切部26をベルト取付手段20の筒長手方向に複数備えることもできる。

【0080】また、仕切部26を、ホックや面ファスナ等を介して、ケース本体10やベルト取付手段20に対して着脱自在に構成することも可能である。このように、仕切部26を着脱自在とすることで、仕切部26によって仕切られた挿通部22a、22bには挿通できない幅の大きいベルト1であっても、仕切部26を取り外すことで第一挿通部22に挿通することが可能となり、さらに、挿通可能なベルト1の種類を拡大することができる。

【0081】このように本実施形態の携帯用ケースによれば、ベルト取付手段20に仕切部26を設けることで、両端固定部21a、21bにより形成される第一挿通部22を二つに仕切ることができるので、ベルト1の挿通位置を上下二段に調節することができ、より多段階の調節を可能としてさらに汎用性の高いケースを実現することができる。

【0082】なお、本実施形態を、上述した筒状のベルト取付手段にスリット孔を備えた第二実施形態の携帯用ケースや、帯状部材によりベルト取付手段を構成した第三実施形態の携帯用ケース、ベルト取付手段の下端を着脱自在にケース本体側に取り付けた第四実施形態の携帯用ケースにも適用できることは言うまでもない。

【0083】

【発明の効果】以上説明したように本発明の携帯用ケースによれば、使用者のベルトをほぼ直交する縦横二方向に挿通可能なベルト取付手段を備えることにより、使用者の好みや体型、取付箇所等に応じて、ケースのベルトへの取付態様を任意に選択することができ、使用者の腹部や腰部等への圧迫を軽減するとともに、収納物への負荷等も防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第一実施形態に係る携帯用ケースを示す背面側から見た全体斜視図である。

【図2】本発明の第一実施形態に係る携帯用ケースを示す左側面図である。

【図3】本発明の第一実施形態に係る携帯用ケースを使用者側のベルトに取り付けた状態を示す背面側から見た斜視図であり、(a)はケース本体を縦に取り付けた状態を、(b)はケース本体を横に取り付けた状態を示している。

【図4】本発明の第一実施形態の変形実施形態に係る携帯用ケースを示す正面側から見た全体斜視図である。

【図5】図4に示す携帯用ケースの右側面図である。

【図6】本発明の第一実施形態の他の変形実施形態に係る携帯用ケースを示す背面側から見た全体斜視図である。

【図7】本発明の第二実施形態に係る携帯用ケースを示す背面側から見た全体斜視図である。

【図8】本発明の第二実施形態に係る携帯用ケースを示す左側面図である。

【図9】本発明の第二実施形態に係る携帯用ケースを使用者側のベルトに取り付けた状態を示す背面側から見た斜視図であり、(a)はケース本体を縦に取り付けた状態を、(b)はケース本体を横に取り付けた状態を示している。

【図10】本発明の第三実施形態に係る携帯用ケースを使用者側のベルトに取り付けた状態を示す背面側から見た斜視図であり、(a)はケース本体を縦に取り付けた状態を、(b)はケース本体を横に取り付けた状態を示している。

【図11】本発明の第四実施形態に係る携帯用ケースを示す背面側から見た全体斜視図である。

【図12】本発明の第四実施形態に係る携帯用ケースを示す左側面図である。

【図13】本発明の第五実施形態に係る携帯用ケースを示す左側面図である。

【図14】本発明の第五実施形態に係る携帯用ケースを使用者側のベルトに縦に取り付けた状態を示す背面側から見た斜視図であり、(a)はベルトをベルト取付手段の上方の挿通部に挿通した状態を、(b)は同じく下方の挿通部に挿通した状態を示している。

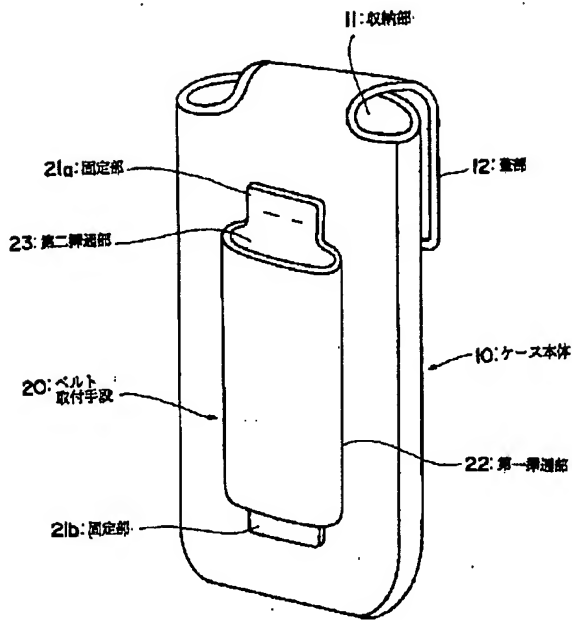
【図15】従来の一般的な携帯用ケースを示す背面側から見た全体斜視図を示している。

【符号の説明】

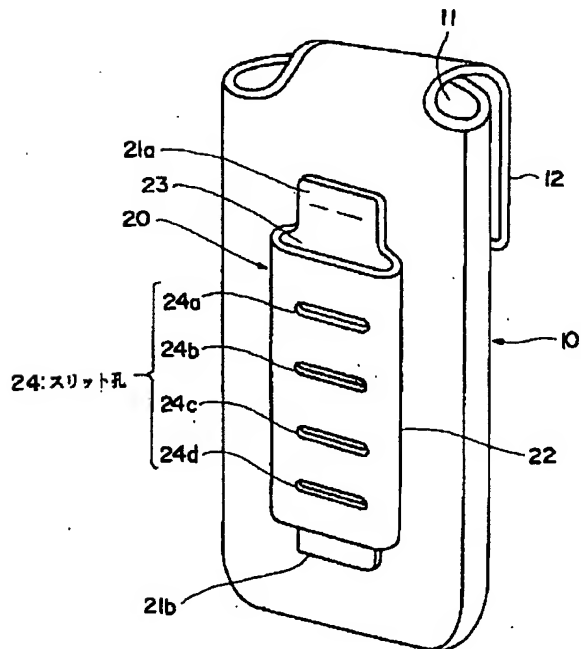
- 10 ケース本体
- 11 収納部
- 12 蓋部
- 20 ベルト取付手段
- 21 (21a, 21b) 固定部
- 22 第一挿通部
- 23 第二挿通部

24 (24a, 24b, 24c, 24d) スリット孔      26 仕切部  
 25 (25a, 25b) ホック

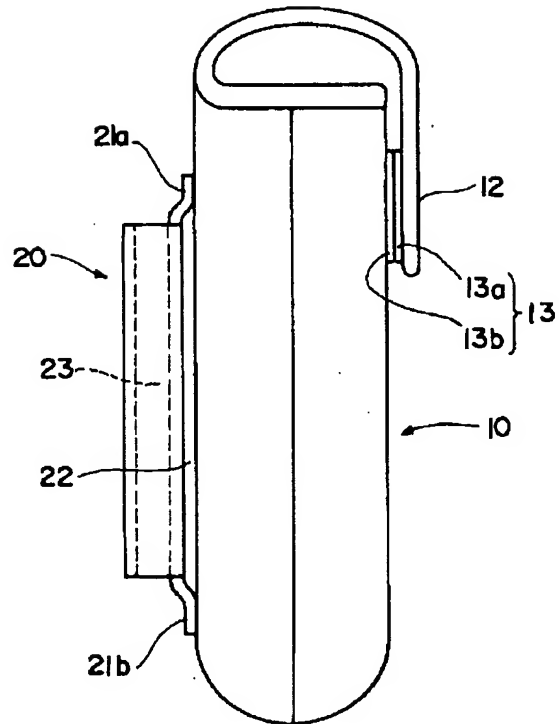
【図1】



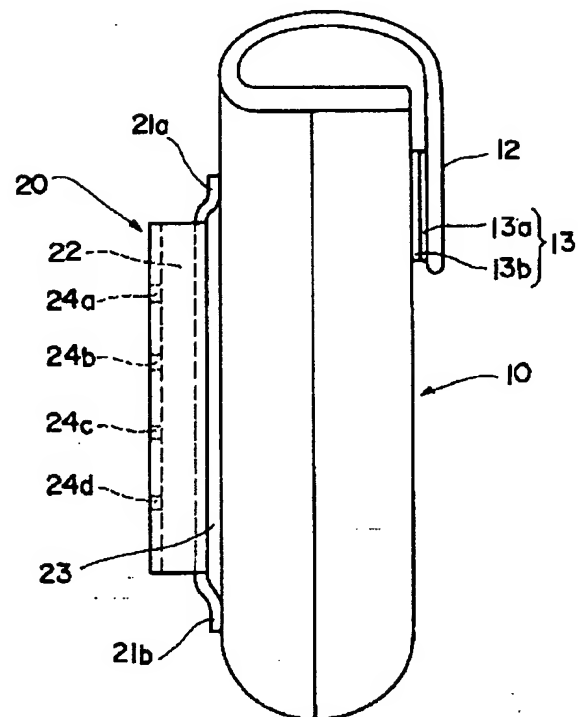
【図7】



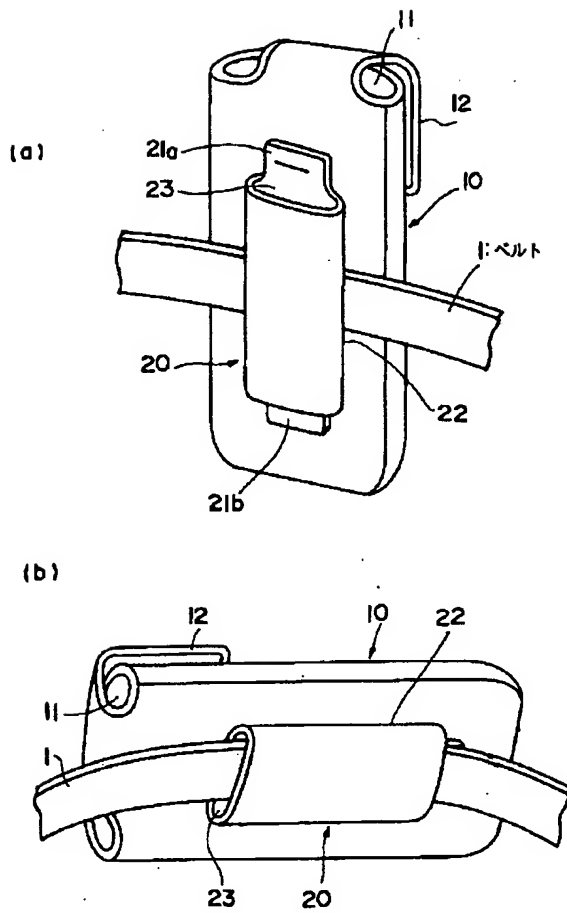
【図2】



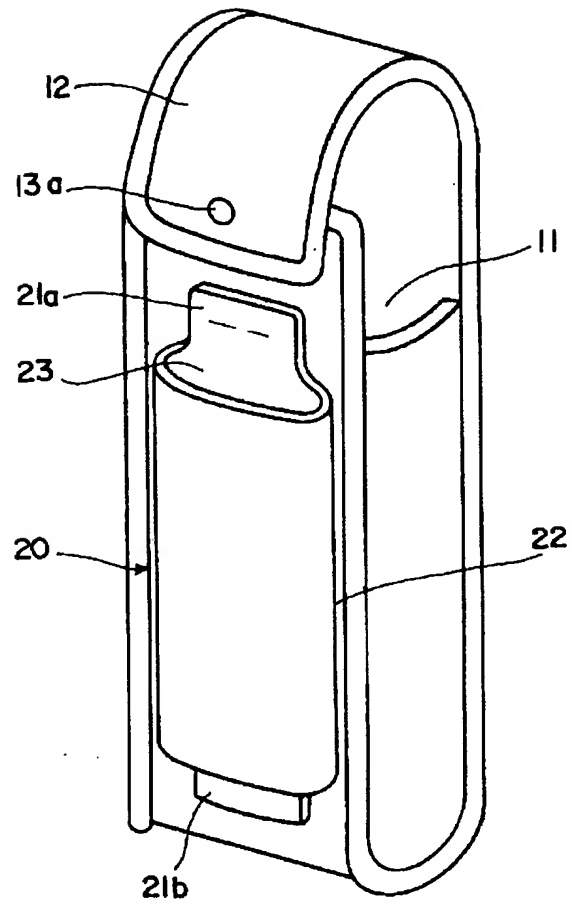
【図8】



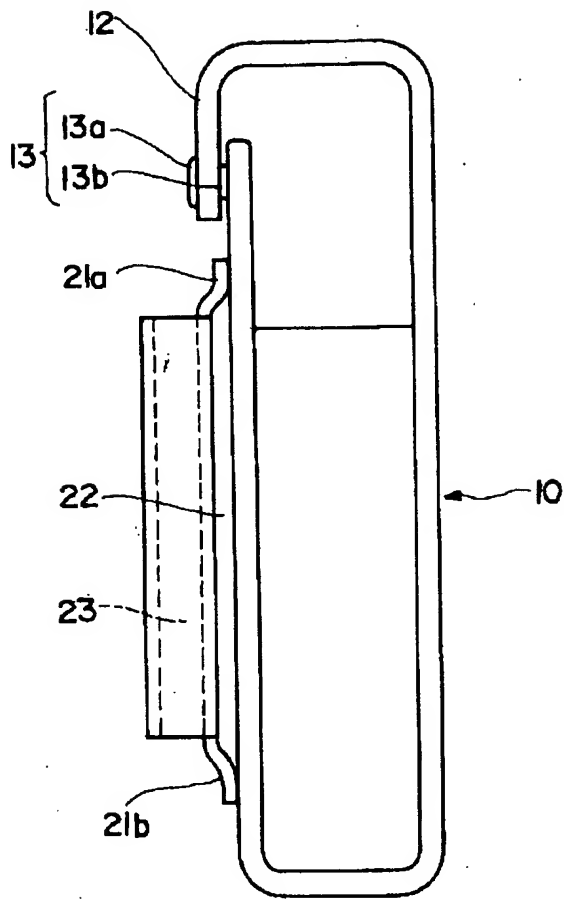
【図3】



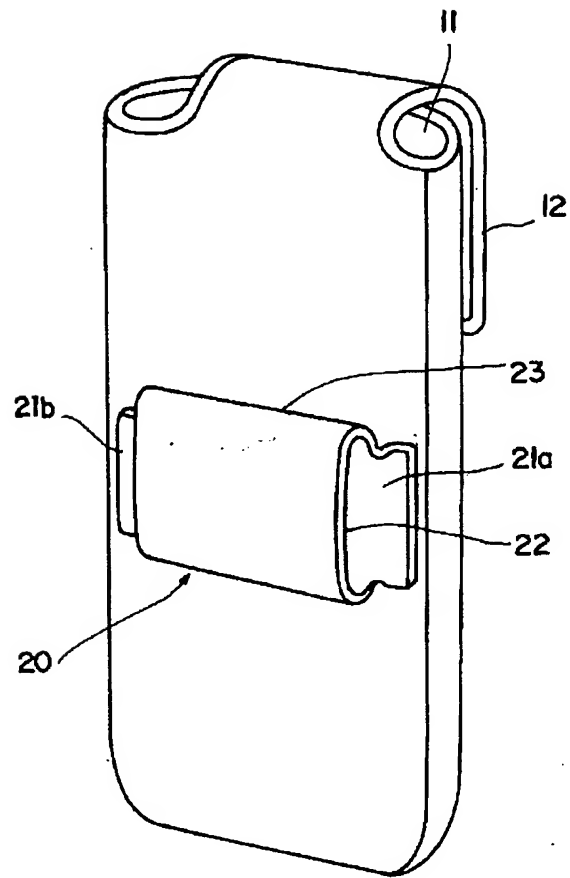
【図4】



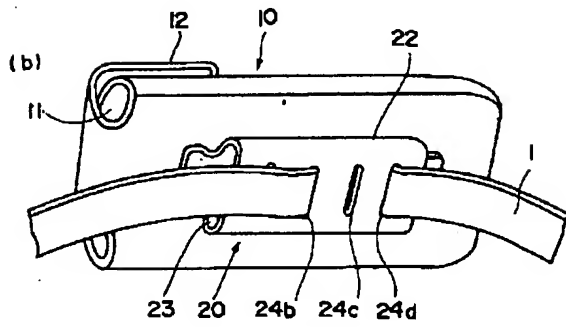
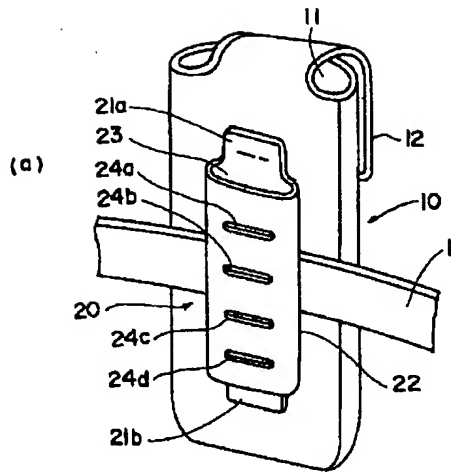
【図5】



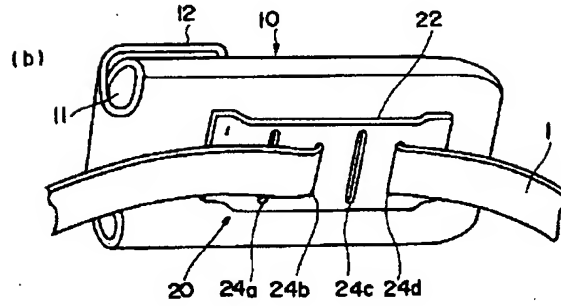
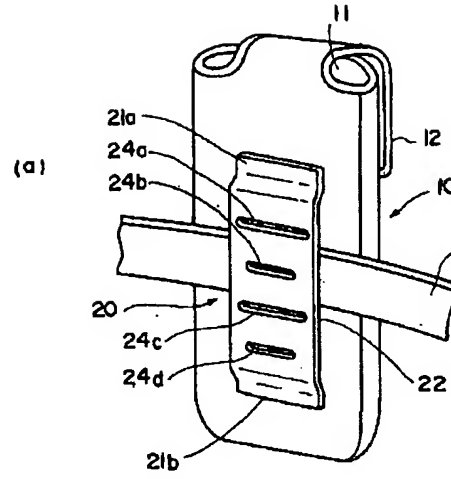
【図6】



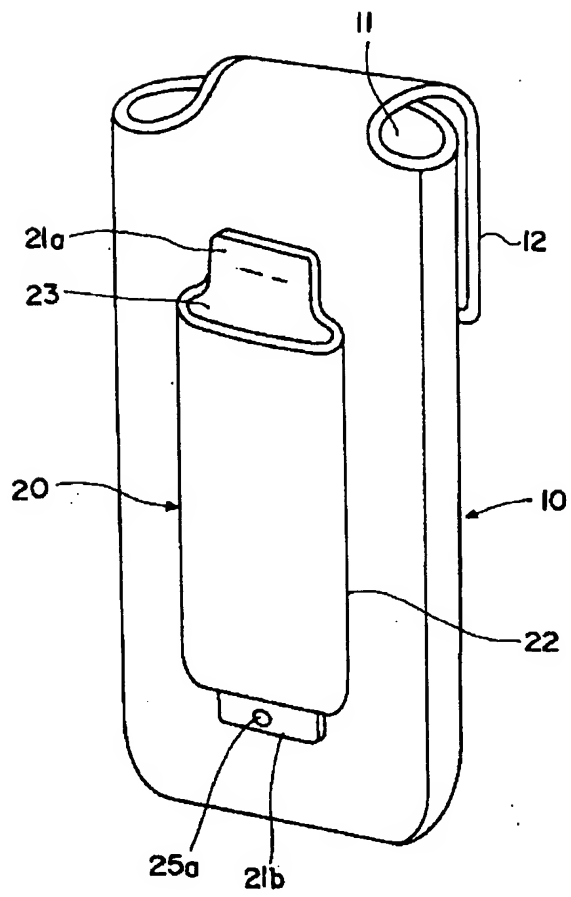
【図9】



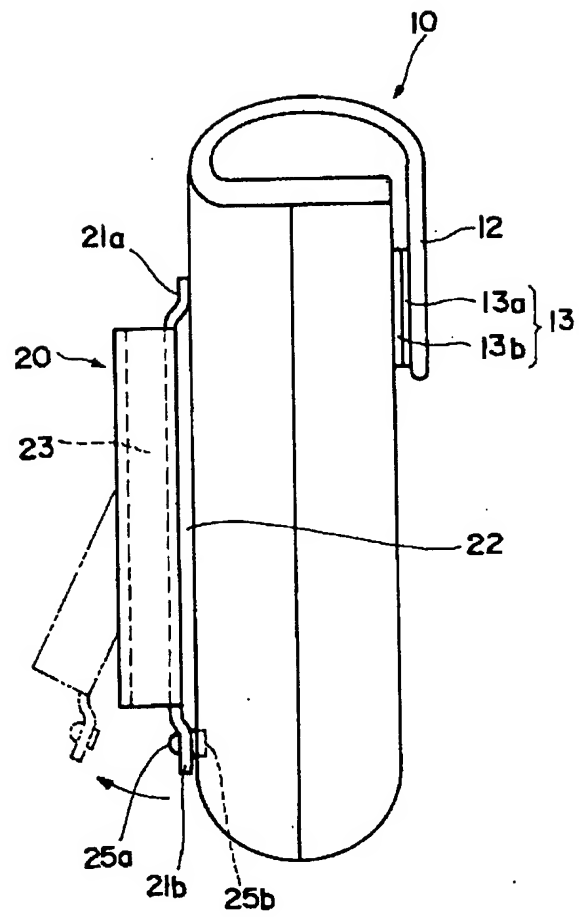
【図10】



【図11】

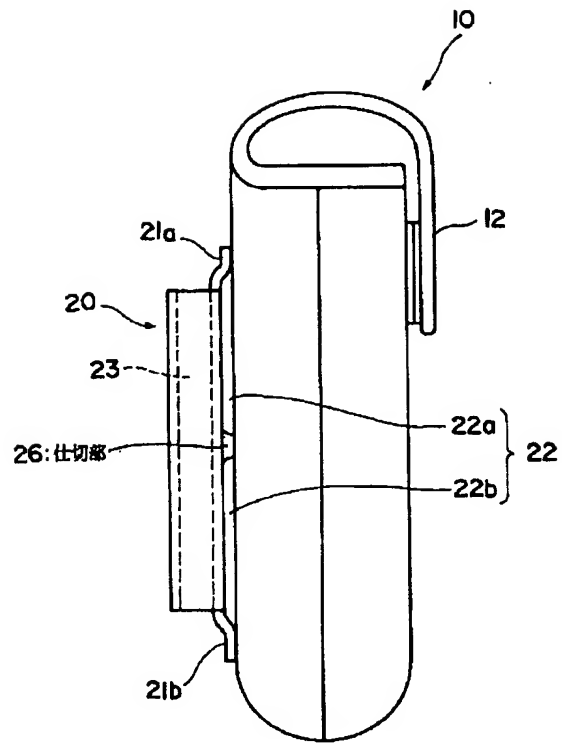


【図12】

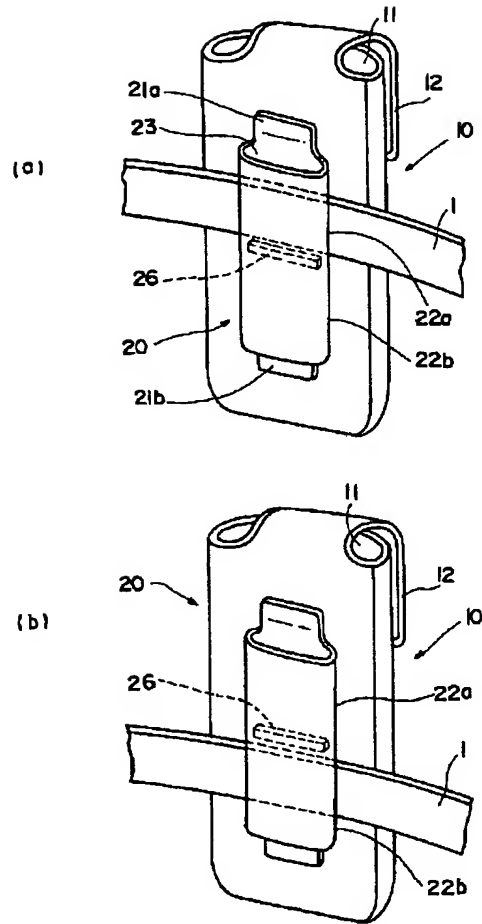




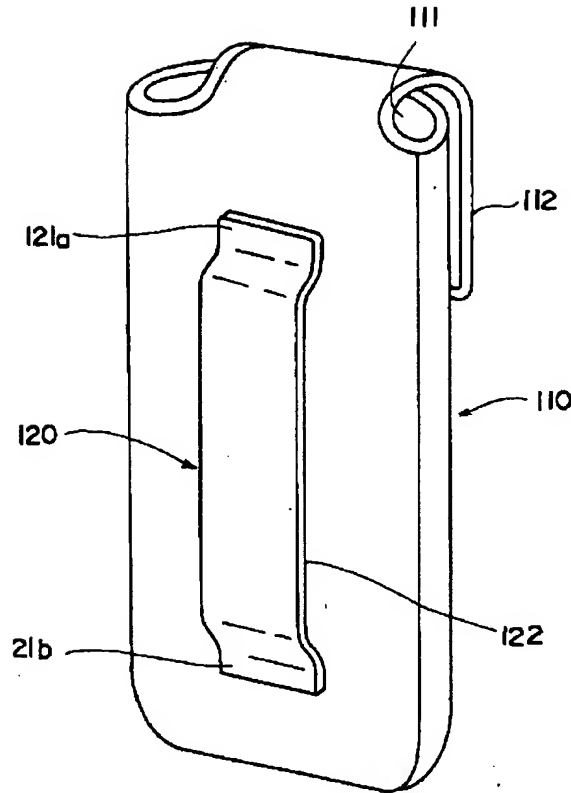
【図13】



【図14】



【図15】



## 【手続補正書】

【提出日】平成11年3月12日

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 内部に携帯対象物を収納可能なケース本体と、このケース本体をベルトに取り付けるベルト取付手段とを備え、

前記ベルト取付手段が、中心に前記ベルトを挿通可能な筒状部材からなるとともに、この筒状部材の開口側の両端に、それぞれ前記ケース本体に固定される一対の固定部を備え、

この筒状部材の中心部及び前記一対の固定部間により、前記ベルトがほぼ直交する二方向に挿通可能な挿通部を構成したことを特徴とする携帯用ケース。

【請求項2】 前記ベルト取付手段の筒状部材表面に、前記ベルトを挿通可能な一又は二以上のスリット孔を穿設した請求項1記載の携帯用ケース。

【請求項3】 前記スリット孔が二以上ある場合に、当該二以上のスリット孔が異なる大きさに形成された請

求項2記載の携帯用ケース。

【請求項4】 前記ベルト取付手段の両端固定部の少なくとも一方を、前記ケース本体に着脱自在に固定した請求項1、2又は3記載の携帯用ケース。

【請求項5】 前記ベルト取付手段の両端固定部間の少なくとも一箇所に、当該ベルト取付手段と前記ケース本体とを連結し、当該固定部間により構成された前記挿通部を仕切る仕切部を備えた請求項1、2、3又は4のいずれか一項記載の携帯用ケース。

## 【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正内容】

【0014】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本発明の請求項1記載の携帯用ケースは、内部に携帯対象物を収納可能なケース本体と、このケース本体をベルトに取り付けるベルト取付手段とを備え、前記ベルト取付手段が、中心に前記ベルトを挿通可能な筒状部材からなるとともに、この筒状部材の開口側の両端に、それぞれ前記ケース本体に固定される一対の固定部を備え、こ

の筒状部材の中心部及び前記一対の固定部間により、前記ベルトがほぼ直交する二方向に挿通可能な挿通部を構成してある。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正内容】

【0015】このような構成からなる本発明の携帯用ケースによれば、ケース本体に備えられた筒状又は帯状部材からなるベルト取付手段によって、使用者のベルトを、ほぼ直交する縦横二方向に挿通することができるので、収納物の形状や大きさ、使用者の好み、体型、取付箇所等に応じて、ケース本体のベルトへの取付態様を任意に選択することが可能となる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正内容】

【0016】これにより、ケース本体を安定的に保持しつつ、使用者の腹部や腰部等への圧迫を軽減し、かつ、収納物への負荷等も防止することができる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正内容】

【0017】また、請求項2記載の携帯用ケースは、前記ベルト取付手段の筒状部材表面に、前記ベルトが挿通可能な一又は二以上のスリット孔を穿設した構成としてある。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正内容】

【0018】このような構成からなる本発明の携帯用ケースによれば、ベルト取付手段へスリット孔を形成し、このスリット孔を利用することによって、ベルトの挿通位置を適宜調節してケースを取り付けることができ、収納物の形状、大きさや使用者の**体形**、取付箇所等に応じて、さらにケース本体のベルトへの取付態様を任意に調節可能となり、より汎用性の高い携帯用ケースを提供することが可能となる。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正内容】

【0019】また、請求項3記載の携帯用ケースは、前記スリット孔が二以上ある場合に、当該二以上のスリット孔が異なる大きさに形成された構成としてある。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正内容】

【0020】このような構成からなる本発明の携帯用ケースによれば、スリット孔の大きさを異ならせることによって、このスリット孔に挿通するベルトの大きさも異ならせることができ、一のベルト取付手段によって二以上の大きさのベルトを挿通させることが可能となり、種々のベルトに対応可能として本ケースの汎用性をさらに高めることが可能となる。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正内容】

【0021】また、請求項4記載の携帯用ケースは、前記ベルト取付手段の両端固定部の少なくとも一方を、前記ケース本体に着脱自在に固定した構成としてある。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正内容】

【0022】このような構成からなる本発明の携帯用ケースによれば、ベルト取付手段の固定部を着脱自在に構成することにより、使用者のベルト等へのケース本体への取付け、取外しを容易に行うことができるとともに、ベルトに限らず、あらゆる箇所へのケースの取付けも可能となる。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正内容】

【0023】さらに、請求項5記載の携帯用ケースは、前記ベルト取付手段の両端固定部間の少なくとも一箇所に、当該ベルト取付手段と前記ケース本体とを連結し、当該固定部間により構成された前記挿通部を仕切る仕切部を備えた構成としてある。

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正内容】

【0024】このような構成からなる本発明の携帯用ケ

ースによれば、ベルト取付手段に仕切部を設けることで、ベルト取付手段の両端固定部分により形成されるベルトの挿通部を複数に仕切ることができ、ベルトの挿通位置をさらに多段階に調節可能とし、より汎用性の高いケースを実現することができる。

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正内容】

【0025】

【発明の実施の形態】以下、本発明の携帯用ケースの実施形態について、図面を参照して説明する。

〔第一実施形態〕まず、本発明の携帯用ケース第一の実

施形態について図1～図3を参照して説明する。

【手続補正14】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正内容】

【0026】図1は、本発明の第一実施形態に係る携帯用ケースを示す背面側から見た全体斜視図である。図2は、本実施形態に係る携帯用ケースを示す左側面図である。また、図3は、本実施形態に係る携帯用ケースを使用者側のベルトに取り付けた状態を示す背面側から見た斜視図であり、(a)はケース本体を縦に取り付けた状態を、(b)はケース本体を横に取り付けた状態を示している。